

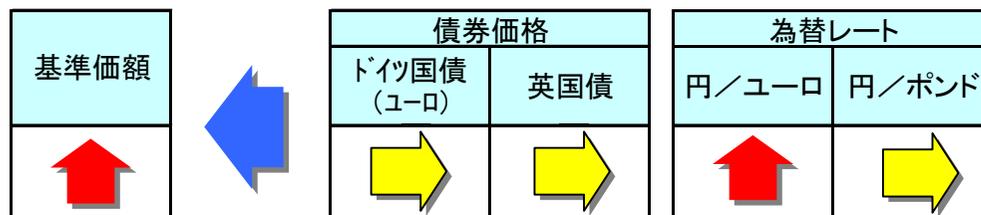
ユーロ・ボンド・ポート 第28期決算速報 (05/9/26)

1. 当期の決算状況

当期末基準価額 (05/9/26)①	前期末基準価額 (05/6/27)②	当期分配金 (課税前)③	前期末比④ (④=①-②+③)	分配金累計 (課税前)
8,610円	8,480円	85円	215円	1,951円

分配金累計は設定来の課税前分配金合計。

< 基準価額騰落要因の概要 >



基準価額の上昇要因は上向き矢印、下落要因は下向き矢印で表しています。

< 分配実績：課税前 >

第1期 (98/12/28)	第2期 (99/3/26)	第3期 (99/6/28)	第4期 (99/9/27)	第5期 (99/12/27)	第6期 (00/3/27)	第7期 (00/6/26)	第8期 (00/9/26)	第9期 (00/12/26)	第10期 (01/3/26)
67円	75円	78円	61円	60円	60円	60円	60円	70円	70円
第11期 (01/6/26)	第12期 (01/9/26)	第13期 (01/12/26)	第14期 (02/3/26)	第15期 (02/6/26)	第16期 (02/9/26)	第17期 (02/12/26)	第18期 (03/3/26)	第19期 (03/6/26)	第20期 (03/9/26)
70円	60円	60円	40円	70円	70円	70円	70円	70円	70円
第21期 (03/12/26)	第22期 (04/3/26)	第23期 (04/6/28)	第24期 (04/9/27)	第25期 (04/12/27)	第26期 (05/3/28)	第27期 (05/6/27)	第28期 (05/9/26)	合計	
70円	75円	70円	85円	85円	85円	85円	85円	1,951円	

< 分配方針 >

ユーロ・ボンド・ポートは、基準価額水準にかかわらず、決算時に利息・配当等収益を分配する方針です。当期につきましては1万口につき85円(課税前)の分配を行いました。

本資料はユーロ・ボンド・ポートを保有するお客様に対してその運用状況をお伝えする為に興銀第一ライフ・アセット・マネジメント(株)が独自に作成した受益者向け資料であり、証券取引法により義務付けられた資料ではありません。当資料はあくまでも情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。本投資信託は、外貨建債券等の価値のある証券(外国証券には為替リスクもあります)に投資をします。市場環境等により基準価額は変動します。このため、元本が保証されているものではありません。本資料は興銀第一ライフ・アセット・マネジメントが信頼できると判断したデータにより作成したものです。その内容の完全性・正確性については当社が保証するものではありません。本資料のコメントはあくまでも作成時点のものであり、今後予告なく変更する可能性があります。

ユーロ・ボンド・ポート

2. 当期の運用コメント (2005/6/28 ~ 2005/9/26)

(1) 当期の運用環境

債券	この3ヶ月の欧州債券市場では、期央にかけて金利は一時上昇(債券価格は下落)しましたが、期末には債券利回りは過去最低水準を更新しました。今期各国の政策金利は、米国での引き上げを筆頭に、ノルウェーとカナダでも引き上げられた一方で、英国や東欧諸国では利下げが実施されました。このような金融政策に象徴されるように、米国や資源国では景気が順調に拡大した一方で、欧州では景気が減速しました。欧州大陸では引き続き企業部門は順調だったものの、家計部門が冴えず、全体として景気はほぼ横ばいに推移しました。
為替	為替市場では、ユーロは、対ドルでレンジ相場となりました。ユーロ圏経済の弱さ、EUの新憲法をめぐる混乱等による春先からのユーロ売りの流れが続き、ユーロ/ドルは7月初めに1ユーロ=1.20ドルを割り込みました。しかしその後は、中東・アジア中銀筋のユーロ買いドル売りなどから、1ユーロ=1.25ドル台後半までユーロ高に振れました。期末にかけては、米欧金利差が意識されて、再度1ユーロ=1.21ドル台までユーロ安の展開となり引けています。英ポンド/ドルは、レンジ内の動きとなりました。

(2) 期中の投資行動

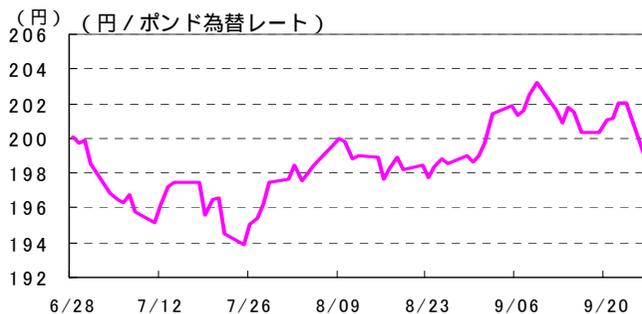
債券	対ベンチマークでデュレーション(≒平均残存期間)は、期を通して小幅短めを維持しました。資産配分については、英国とその他欧州との間の資産配分はほぼ中立に保ちました。
為替	国別の債券配分と通貨配分は一致しております。

(3) 今後の運用方針

相場動向	米国の景気は、ハリケーン「カトリーナ」がもたらした悪影響が残るものの、引き続き順調なペースで拡大すると予想します。生産性の伸びがやや減速する中、雇用環境の改善が継続すると見込まれます。一方で、欧州圏の景気については、内需主導による自律的な回復は見込み難く、外需依存の緩やかなものにとどまると予想します。
債券	上記相場見通しのもと、現状の債券利回りはやや低すぎると判断しており、今後は緩やかに水準を切り上げると予想します。従って、当面は金利リスクについては慎重に対応いたします。
為替	国別配分については、為替益のメリットを享受すべく英国とユーロ圏の配分を適宜変更しながらの運用を継続する見込みです。

3. 期中の金利・為替動向

* 為替レートはTTM (05/6/28 ~ 05/9/26)、国債利回りは終値¹⁾ (05/6/27 ~ 05/9/23)。(出所: Bloomberg)



本資料はユーロ・ボンド・ポートを保有するお客様に対してその運用状況をお伝える為に興銀第一ライフ・アセット・マネジメント(株)が独自に作成した受益者向け資料であり、証券取引法により義務付けられた資料ではありません。当資料はあくまでも情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。本投資信託は、外貨建債券等の価値のある証券(外国証券には為替リスクもあります)に投資をします。市場環境等により基準価額は変動します。このため、元本が保証されているものではありません。本資料は興銀第一ライフ・アセット・マネジメントが信頼できると判断したデータにより作成したものであり、その内容の完全性・正確性については当社が保証するものではありません。本資料のコメントはあくまでも作成時点のものであり、今後予告なく変更する可能性があります。